



ADRC Highlights

Vol.43

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

March 18, 2002

➤ JICA-ADRC 防災行政管理者セミナーの実施

アジア防災センターでは、昨年度に引き続き JICA (国際協力事業団) から委託を受け、発展途上国政府の防災担当者に対する研修を 1 月 21 日～2 月 22 日にかけて実施しました。日本に招聘し、我が国の防災に関する知識、経験を習得する機会を提供するもので、途上国の防災力の向上、人材育成に貢献するのが主な趣旨です。研修には、バングラデシュ、フィジー、インドネシアをはじめ 11 ヶ国から 13 名が参加しました。

研修内容としては、国や地方自治体による防災対策はもとより、阪神・淡路大震災以降民間の役割が重要との認識が高まっていることに鑑み、消防団、NPO、マスコミ、コープ、民間企業等の役割についても講義を行いました。また、「開発」と「防災」の関係等国際防災協力についても説明しました。



さらに、講義形式にとどまらず、神戸のまちを研修生が実際に見て歩き災害に対する危険箇所や防災対策を検討するタウンウォッチングや、小学校・高等学校での防災教育の取り組み、神戸の被災地コミュニティとの意見交換等も

実施しました。特に神戸市立宮川小学校では、4 年生が 10 グループに別れて、学区内の地震、洪水、火事、防犯、交通事故等についてそれぞれ防災マップを作り、問題点、解決策等についてグループ毎に生徒による発表が行われ、見学した研修生にとって非常に興味深いプログラムとなりました。

研修生からは、住民レベルの防災普及啓発への取り組みが大変印象的であったとの声が多く聞かれました。特に学校防災は、児童から家庭に広がること、学校区というコミュニティ単位であること、経費的にも高価でないことから、自国の防災対策に反映させたいとの意見が出ました。アジア防災センターでは、この度の研修の成果を踏まえて、今後も防災人材育成に取り組んでいきたいと思ひます。

(主任研究員 青田良介)

➤ カザフスタンではじめての国際防災展開催 / 神戸で第 6 回の震災対策技術展開催

カザフスタンは 1991 年の独立以来はじめて、国際防災エキスポ (ユーラシア 2002) を 2002 年 2 月 27 日～3 月 2 日までの 4 日間、天山山脈のふもとアルマティ市でロシア政府と共催で開催しました。

開会式は、タジキスタン、キルギス、ウズベキスタン、アゼルバイジャンなどの CIS 諸国の防災責任者やアジア防災センターなどが出席しました。展示会には防災関係者のみならず、市民、学生なども多く来場し、市民の防災に対する関心の高さを感じました。

また、日本においても 2 月 14、15 日の 2 日間、神戸国際展示場お

よび横浜国際平和会議場の 2 会場で同時に第 6 回震災対策技術展が行われ、7 千人を超える来場者で賑わいました。また、技術展にあわせて防災に関するセミナー・シンポジウムも開催されました。

ADRC では、2000 年よりホームページ上にインターネット防災技術・機器展示場を公開し、200 点以上の防災技術・機器を紹介しています。また今後メンバー国での防災対策技術なども紹介していきたいと考えています。(主任研究員 吉村文章)



ナルカディロフ 緊急局長の開会挨拶

➤ ADRC 客員研究員からのレポート

□ バングラデシュ アティックザマン客員研究員



私は、日本と同様地理的に災害に非常に脆弱なバングラデシュから、この 1 月に客員研究員としてアジア防災センターに来ました。バングラデシュでは、サイクロン、洪水、堤防決壊、トルネード、高潮などの災害が頻繁に起きます。

私は本国ではバングラデシュ行政トレーニングセンター (政府国家訓練機構) で所属しています。ここでは、災害管理、環境開発と管理、貧困軽減、地方行政管理などの研修コースを提供しています。また私は地理環境科学で修士号を得たので、災害関連分野で研究をすることができることを嬉しく思います。1993 年には私はダッカ首都圏開発機関 (RAJUK) で土地管理官として、政府と国連人間居住センター、国連開発計画との共同プロジェクトに携わった経験もあります。

来日直後には JICA (国際協力事業団) 防災管理セミナーに参加することができ、非常に勉強になったとともに、14 国から参加している防災関連の専門家と知り合い、互いの情報を交換することができました。さらに、日本の様々な災害関連の機関や施設を訪問し、とりわけ阪神淡路大震災関連の訪問先から多くのことを知り、防災への備えや防災対策の大切さを実感しました。

現在私は災害分野に対して大きな関心を持っているので、さらにこのプログラムで多くのことを学びたいと考えています。アジア防災センターの客員研究員制度という人材育成プログラムは、非常に特格的で実際的だと思います。災害についての知識ばかりでなく、日本の文化、習慣や行動パターンについても学ぶことが多々あります。私の ADRC での生活は、非常に多くのことを学び、人生において記憶に残る楽しい日々となることと思ひます。

(バングラデシュ地域行政トレーニングセンター 課長 Md. アティックザマン)

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行：Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 IHD ビル 3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料：無料 / 毎月 2 回発行 (予定)